



奈良町にぎわい通信

Vol.18

二〇一六・寒露〜霜降

発行
奈良町
にぎわいの家





吉川宗文社中
による茶会



お子さんも菊の
被綿体験を。



菊に綿をかぶせて香りをうつし、
その綿で顔や体をぬぐうと長寿になると
言われています。



皆さん、
わきあいあいと。



秋の色・桔梗色の
お菓子



韓国は全州市の市長さんが来館。スタッフが
節句の説明を。

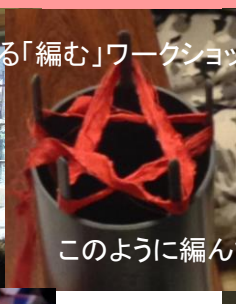
奈良町にぎわいの家 9月のイベントから



集中して編む！



美術家の林先生による「編む」ワークショップ



このように編んでいきます。



編んだ作品は
茶室に
飾りました。



恒例の
かまど体験、
美味しく
できました。



おはぎ作り体験。かまどで蒸して丸めてお餅作り。



東アジア文化都市2016奈良市「ならまちアートプロジェクト」展から

9月初めから1ヶ月半に渡り、市内各所で開催された、奈良市と文化庁共催の現代アート展に当館も参加しました。春日大社他の八社寺では、世界を代表するアーティストの作品が、奈良町では国内の気鋭の作家による作品が展示されました。伝統的な奈良に現代アート？と思う方もいるでしょうが、近年、「観光」と結びついた、現代アートの催しが各地で行われています。代表例としては、「瀬戸内国際芸術祭」。瀬戸内の島を巡りながら、アートを楽しむと同時に、島ならではのおもてなしも体感できる、つまりアートと観光が一体となった事業として、広く注目され、昨年、第一回ジャパンツーリズム・アワードで大賞を受賞しました。この「瀬戸芸」のディレクターが北川フラム氏。北川さんは、この度の「東アジア文化…」の美術部門のディレクターとして、当館にもお越しいただきました。その土地ならではの「場の力」とアートがどう共鳴するのか、当館の展示「FLOW」は奈良町の「流れ」(地下水など)を意識したもので、町家と融合した作品に仕上がっておりお客様にとっても好評でした。同時に、町家の魅力も感じていただいている様子に嬉しくなりました。

9/10に行われた「にぎわいアーティストトーク」は、当館「つし2階アート企画」のコーディネーター、野村ヨシノさんの司会で、作家の岡田一郎さんと、林和音さんの製作者としての生の声を聞きました。岡田さんの「にぎわいの家が単なるハコとしてだけでなく、絶えず動き、何かが生まれる場として期待している」との意見や、野村さんからの現代アートの現況や、自治体とアートの関わりなどへの提言は、とても参考になりました。



最後、参加者の皆さんの感想を聞き、林さんの作品のファンで応援しているというご婦人の温かい声に励まされました。今後も、奈良町の施設や場所が連動して、新たな創造につながる事業ができればいいな、と感じたアートプロジェクトでした。

(当館総合プロデューサー おの・こまち)

にぎわいの家・NHKで生放送！



9/24(土)NHKの朝のニュース番組、「おはよう日本」と「ウィークエンド関西」、9/26「ならナビ」で紹介されました。全国ニュース&関西版での発信、放送後、テレビを見て来た、というお客様の声も多かったです。町家空間に広がるアート。生放送のため、事前に念入りにリハーサルがあり、町家ならではの空間の面白さをと、撮影スタッフの皆さんの、こだわりのカメラワーク。6分半という時間で、当館の魅力を良く伝えて下さいました。また、作家の岡田一郎さんは、

奈良局の大川アナウンサーと



作家の岡田さん

大川アナウンサーのインタビューに堂々のコメントを。早朝5時入りで、ご近所の皆様にもご協力いただき感謝です。無事の放送、皆さんお疲れ様でした。

奈良町にぎわいの家・二十四節気企画 オリジナル短歌&書&マークをお楽しみください。

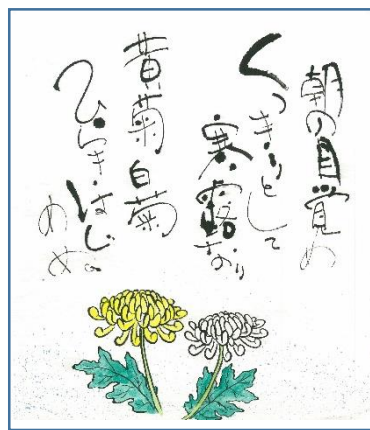
短歌
喜多隆子(歌人)
書
逢香(書家)
節気マークデザイン
金田あおい(藍寧舎)



「寒露」

朝の目覚めくつきりとして寒露なり
黄菊白菊ひらきははじめぬ

急に寒くなりだした朝、その冷たさが、逆に目を覚ましてくれる寒露のころ。ちょうど、黄色や白の菊が咲き始めた。ひんやりとした秋の空気感でのさわやかな目覚めと、菊の黄と白の目の覚めるような、くつきりとした色の感触が重なる、秋の輪郭が鮮やかなお歌です。



事務局だより

2016
霜降号

事務局長 藤野正文

10月、二十四節気では寒露から霜降。菊の花が咲く季節になりました。温度が30度を超える日もありました。が、一気に秋が深まり冬に向かう季節。山間では既に稲刈りも終わり、秋の花を代表する鮮やかな菊が咲き、柿など食べ物がいっぱい季節。

一方でこの季節は、日常の生活をちよつと離れて、旅行やコンサート、美術展、演劇に出かけたり、静かに読書にふけったりしながら、歴史あるものや自然の大切さを改めて感じたり、新しいものの見方に気づいたり、また、新たなアイデアが頭に浮かんでくる頃ではないでしょうか？「奈良町」は知らない人になんとか説明のしにくい「まち」ではないでしょうか？城下町でもない、昔の街道の宿場町でもない、お寺や神社を中心とした門前町でもない。また、きれいな水路が流れているわけでもなく、これといって写真になる場所があるわけでもなく、有名なお祭りがあるでもない。いろんな伝統産業があるところでもない。古い町家が残ってきただけのどこにでもあるまち？

でも最近では海外の観光客や多くの若い人たちがこの「奈良町」に來たり、住みたい人があるというの、はどういうことなんだろう？とあらた

めて、思い出しながら考えてみると、これからの「奈良町」の未来へのヒントが隠されているように思います。「奈良町のこんなところが好きやねん」と奈良町好きにもそれぞれのさまざまな思いもあるかと思ひますし、住まわっている方でも誇りをもって語れる、子供たちに引き継ぐ「奈良町」の価値をそれとなく意識されていると思います。

今、そういった思いや意識をオモテに出して、この「奈良町」を子供や来訪者に自慢げに誇りをもって、きちつと説明・解説できるカタリコトバ（外国からの来訪者にも翻訳して説明できるコトバ）を皆さんで生み出していくときに来ているのではないかと思います。そのうえで「奈良町」はこれまでのカタリコトバ（価値）をベースにしなが、新たなクリエイティブな活動が生まれてくるところでなければ生き残れない、まちが新たなクリエイティブな活動を生み出す活力を持ち得ないと、いつの間にか「奈良町・ならまち」という名前が忘れ去られて消滅してしまうのではないかと私は危惧しています。



にぎわい・お月見の巻
秋の夜長を楽しみましょう。

★にぎわいトピックス★

①おはぎ体験企画・大人気！

9/19に行われたおはぎ作り体験、10名の定員になんと、70名の応募が！いそぎ、定員を増やして対応。昔はお彼岸になると、家で作ったおはぎ。そんな懐かしい味を、かまどで作れたら！と思われての人気だったのかも。さて、当日は子どもから大人まで、かまどで蒸し上げた餅米をつき、丸め、手作りの餡をつけて美味しいおはぎが完成しました！



②ティチクうたものがたり」 稽古中！

ティチク。日本を代表するレコード会社の本社工場が、京終駅の近くにあったことを、若い方たちは知らないという声も聞きます。その

ティチクの創生期をオリジナルの朗読劇として書き下ろし、現在、稽古中です。

昭和の懐かしい歌を歌いながら、奈良から全国に流行歌を発信していたティチクの軌跡を市民の皆さんが、お届けします。



初稽古中。緊張するなあ...

奈良町にぎわい通信vol.18

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

<http://naramachi-nigiwainoie.jp/>

奈良町にぎわいの家二十四節気マークから



寒露 10/8~
秋の空気清し

十月の節気



霜降 10/23~
霜降りころ

イベント、講座情報は、ホームページ、フェイスブックからご覧になれます。是非、ご参加ください。

日本の主食、米の一人あたりの消費量はこの50年で半分になったとのこと。せつかくの実りの秋、感謝しながら、新米を美味しくいただきたいですね。